

2024年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月10日

上場会社名 アレンザホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3546 URL <http://www.alleanza-hd.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅倉 俊一  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818  
 四半期報告書提出予定日 2023年7月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第1四半期の連結業績(2023年3月1日~2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第1四半期	38,468	△0.0	1,460	△29.7	1,613	△26.2	1,048	△7.1
2023年2月期第1四半期	38,481	—	2,077	—	2,187	—	1,129	—

(注) 包括利益 2024年2月期第1四半期 1,073百万円(△5.6%) 2023年2月期第1四半期 1,137百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第1四半期	34.82	34.77
2023年2月期第1四半期	37.48	37.43

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。2023年2月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第1四半期	86,792	30,145	33.3
2023年2月期	82,493	29,651	34.5

(参考) 自己資本 2024年2月期第1四半期 28,915百万円 2023年2月期 28,438百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	19.0	—	19.0	38.0
2024年2月期	—				
2024年2月期(予想)		19.0	—	19.0	38.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	77,800	3.7	3,550	1.6	3,750	0.7	2,250	6.7	74.74
通期	154,000	3.2	5,900	9.4	6,250	5.6	3,650	34.8	121.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年2月期1Q	30,193,386株	2023年2月期	30,193,386株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2024年2月期1Q	70,228株	2023年2月期	70,140株
------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年2月期1Q	30,123,197株	2023年2月期1Q	30,130,848株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	9
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年3月1日～2023年5月31日）におけるわが国経済は、政府による新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行の発表とともに各種行動制限が解除されたことで、人流も回復し経済活動の正常化への動きが見られました。しかしながら、為替や長期化するウクライナ情勢の影響で、資源、エネルギー価格が高止まりし、電力をはじめとして物価高が継続するなど国内景気の見通しは依然として不透明な状況が継続しております。

このような状況下で、当社グループは「Challenge3000」営業収益3,000億円、経常利益率5%をグループ目標として掲げ、中期成長戦略として中核事業であるホームセンター事業を中心に収益基盤を強化するために「商品力の向上」、「店舗力の向上」に取り組んで参りました。各種専門店（ペット専門店、工具資材のプロショップ）の新規出店を積極的に推進するとともに、既存店の全面改装、部門改装を順次実施し、植物・園芸、アウトドア、ペット、自転車などの専門カテゴリーの品揃えの拡充、農機具、工具等の修理サービスやペットしつけ教室の開催など、付加価値サービスを提供することでお客様の目的来店性を高め、地域一番店づくりに注力して参りました。

当第1四半期連結累計期間における新規出店としましては、ホームセンターを1店舗、ペット専門店3店舗、合計4店舗新たに開設し、ホームセンター1店舗、オフィス用品専門店1店舗をそれぞれ閉店しております。これにより当第1四半期連結会計期間末の店舗数は292店舗となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の連結営業収益は、384億6千8百万円（前年同期比0.0%減）、連結営業利益は14億6千万円（前年同期比29.7%減）、連結経常利益は16億1千3百万円（前年同期比26.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億4千8百万円（前年同期比7.1%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### [ダイユーエイト]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客数が前年同期比で6.8%減少し、客単価が前年同期比で2.6%増加したことにより、既存店売上高は4.3%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、期初は例年より気温が高く好天に恵まれたこともあってホームセンターの主力部門である園芸、植物、農業資材が好調に推移いたしました。一方で前年は2022年3月に発生した福島県沖地震による補修資材、工具などの特需もあったことで、当期はその反動減の影響が大きく、当第1四半期連結累計期間全体を通じ木材塗料、工具金物、作業資材等の売上が前年同期比で大きく減少しております。また、5月の大型連休期間は低気温と降雨の影響で野菜苗、除草剤関連など植物、園芸関連用品の売上指数が計画を下回った影響も大きく、既存店売上高が前年同期比で減少する結果となりました。

EC部門につきましては、ECがウィズコロナ時代の主要な購買チャネルとしてユーザーの日常ライフスタイルに定着しており、EC取扱高も年々伸長の一途をたどっているなかで、取扱い品目の増加、即日発送対応といった体制構築のコスト負担はあったものの、更なるユーザーサービスの向上に努めたこともあって前年同期比で売上高が増加しております。

利益面につきましては、商品力の強化として取り組んでいるプライベートブランド商品の取扱高が増加したことで利益率が前年同期比で増加しているほか、前年に開設した新物流センターを中心として物流の効率的な運用、コスト低減に継続的に取り組んでおります。

コスト面につきましては、資源価格の高騰や国内物価の上昇の影響で、水道光熱費が増加していること、また、キャッシュレス決済手数料、ECサイト販売手数料等のコスト負担増加の影響で販売費及び一般管理費が前年同期比で増加しております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント営業収益は117億7千5百万円（前年同期比3.4%減）、セグメント利益（営業利益）は3億8千9百万円（前年同期比48.4%減）となりました。

#### [タイム]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客数が前年同期比で7.4%の減少、客単価が前年同期比で3.5%増加したことにより、既存店売上高は4.2%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、当第1四半期連結累計期間でインフレ基調での相次ぐ商品の値上げの影響で消費者の節約志向が強くなっている状況であります。ペット関連用品、食品、酒類などの売上が好調に推移いたしました。また、当四半期は梅雨入りが前年より早く5月中は降雨が多く雨具・長靴等の作業用品の売上也好調でありました。一方、前年と比較して最需要期における天候不順の影響で主力部門である植物、園芸用品、農業資材関連の売上が低迷いたしました。

このような状況の中で、さらなる集客力の向上を図り、家族で楽しく過ごせる地域密着型ホームセンターへ進化するため「寄せ植えフォトコンテスト」、「1品10%引クーポン」、d払い「スーパー販促プログラム」クーポン配布、アプリ会員入会キャンペーンを実施し、幅広い年齢層のお客様に感動していただけるようなサービスの提供に取り組んで参りました。また、お客様に新たな発見をしていただけるよう新商品、話題商品への取組み、テーマ性のある売場づくりによる需要創造、従業員の商品知識習得による販売力強化など総合的な店舗力の強化に取り組んでおります。

販売費及び一般管理費につきましては、備品消耗品や水道光熱費の節約奨励や、作業計画に合わせた綿密な人員配置を行うことで残業時間の削減を行う等、効率を上げることで必要コストの圧縮に継続的に取り組んで参りました。

これらの結果、タイムにおけるセグメント営業収益は43億3千4百万円（前年同期比0.3%減）、セグメント利益（営業利益）は7千2百万円（前年同期比26.8%減）となりました。

#### [ホームセンターバロー]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客数が前年同期比で6.2%減少、客単価が前年同期比で5.0%増加したことにより、既存店売上高は1.5%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては当第1四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴うお客様の意識、行動変化により、マスク、除菌ペーパーなどの衛生関連商品、アウトドア用品の売上が前年同期比で減少しております。また、5月の大型連休期間は降雨や天候不順の影響で売上高計画比を下回る結果となりました。物価高騰による値上げへの対応としましては、3月の期初から資材関連商品において「価格凍結宣言」として、木材・金物など消耗品の価格政策を打ち出したことで前年の売上を上回ることができました。また、消費者の物価高に対する節約志向対策として、省エネカーテンや消費電力を抑制するエコ商品提案を実施し、省エネ商品の販売が好調に推移いたしました。また、当四半期は台風・豪雨・地震などの災害対策商材、防犯対策商材の強化へ取り組んで参りました。

販売促進におきましては、デジタル販促への移行として、SNSによる店舗情報発信やバローグループ「ルビットクレジット」開始に伴うポイント販促を推進しております。また、コロナ状況の落ち着きから実演イベントの再開など、リアル店舗としての取組みを順次再開しております。

EC事業におきましては、取扱商品の商談を強化し、価格については独自の仕組みで調査、設定する仕組みを構築し、売上・利益の確保に取り組んだ結果、前年同期比で大きく売上高が伸びました。

ペット事業におきましては、プライベートブランド商品の開発を推進しております。また、トリミング、しつけ、動物病院などの付加価値サービスの提供が好調に推移しております。

コスト面につきましては、水道光熱費のコスト負担増がありますが、当第1四半期を通して経費削減に取り組んだ結果、販売費及び一般管理費は計画内で推移しております。

これらの結果、ホームセンターバローにおけるセグメント営業収益は149億8千6百万円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益（営業利益）は6億9千8百万円（前年同期比13.8%減）となりました。

#### [アミーゴ]

ペットワールドアミーゴは、既存店ベースで、客数が前年同期比で5.9%減少、客単価が前年同期比で4.5%増加したことにより、既存店売上高は1.7%減少となりました。

当第1四半期連結累計期間については、コロナ禍における急激なペット需要がピークアウトしたことで、特に生体の販売数減少が顕著でありました。それにともないペットケージやサークルなどの関連用品の販売数も減少している状況であります。生体以外のペットシートなどの消耗品、犬、猫おやつ、プレミアムフードは堅調に推移いたしました。

売上対策としては、什器レイアウトの変更、店舗設備の入替など店舗の活性化を目的に既存店1店舗の改装を実施しております。3月には徳島県3店舗目となる「ペットワールドアミーゴ北島店」、4月には石川県金沢市に2店舗目となる「ペットワールドアミーゴ金沢有松店」を新規出店し、既存出店地域における出店エリアを拡大しております。

コスト面につきましては、キャッシュレス決済手数料の増加、水道光熱費の増加などコスト負担が増加しておりますが、第1四半期全体を通して各種コスト削減に取り組んでおります。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント営業収益は52億1千1百万円（前年同期比3.9%増）、セグメント利益（営業利益）は2億1千8百万円（前年同期比39.1%減）となりました。

#### [その他]

セグメント営業収益は56億5千2百万円（前年同期比6.5%減）、セグメント利益（営業利益）は17億6千万円（前年同期比17.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が867億9千2百万円、負債が566億4千6百万円、純資産は301億4千5百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は33.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、2023年4月11日付「2023年2月期決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました業績予想値に変更ありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,601	3,612
売掛金	2,061	2,610
棚卸資産	25,977	27,984
未収入金	5,547	6,680
その他	1,234	1,311
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	38,421	42,199
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,733	45,770
減価償却累計額	△23,842	△24,170
建物及び構築物(純額)	20,890	21,599
土地	4,109	4,109
リース資産	3,432	3,495
減価償却累計額	△1,732	△1,662
リース資産(純額)	1,700	1,832
その他	9,083	8,561
減価償却累計額	△6,484	△6,570
その他(純額)	2,598	1,991
有形固定資産合計	29,298	29,532
無形固定資産		
のれん	1,515	1,491
その他	5,355	5,492
無形固定資産合計	6,870	6,984
投資その他の資産		
敷金及び保証金	6,019	6,099
その他	1,919	2,013
貸倒引当金	△36	△36
投資その他の資産合計	7,902	8,076
固定資産合計	44,072	44,593
資産合計	82,493	86,792

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,194	9,885
電子記録債務	7,087	7,848
短期借入金	4,925	7,797
1年内返済予定の長期借入金	4,831	4,688
リース債務	737	772
未払法人税等	1,167	736
役員賞与引当金	42	1
契約負債	756	778
その他	6,591	7,708
流動負債合計	35,334	40,216
固定負債		
長期借入金	11,378	10,258
リース債務	1,494	1,567
役員退職慰労引当金	137	140
退職給付に係る負債	1,135	1,144
資産除去債務	1,587	1,650
その他	1,773	1,667
固定負債合計	17,507	16,429
負債合計	52,842	56,646
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,011	2,011
資本剰余金	12,502	12,502
利益剰余金	13,974	14,450
自己株式	△61	△61
株主資本合計	28,426	28,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
退職給付に係る調整累計額	11	12
その他の包括利益累計額合計	11	12
新株予約権	19	19
非支配株主持分	1,193	1,211
純資産合計	29,651	30,145
負債純資産合計	82,493	86,792



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日)
売上高	37,472	37,425
売上原価	24,509	24,538
売上総利益	12,962	12,886
営業収入	1,009	1,043
営業総利益	13,971	13,929
販売費及び一般管理費	11,894	12,469
営業利益	2,077	1,460
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	1	1
受取手数料	98	97
その他	62	88
営業外収益合計	170	192
営業外費用		
支払利息	22	20
借入手数料	4	4
為替差損	28	1
その他	4	13
営業外費用合計	60	39
経常利益	2,187	1,613
特別利益		
固定資産売却益	-	9
補助金収入	14	-
その他	-	1
特別利益合計	14	10
特別損失		
固定資産除却損	5	7
減損損失	106	-
投資有価証券評価損	-	3
閉店損失引当金繰入額	151	-
災害損失引当金繰入額	105	-
その他	45	0
特別損失合計	415	11
税金等調整前四半期純利益	1,786	1,613
法人税、住民税及び事業税	960	748
法人税等調整額	△329	△203
法人税等合計	630	545
四半期純利益	1,155	1,067
非支配株主に帰属する四半期純利益	25	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,129	1,048

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	1,155	1,067
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19	5
退職給付に係る調整額	1	0
その他の包括利益合計	△18	5
四半期包括利益	1,137	1,073
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,115	1,049
非支配株主に係る四半期包括利益	21	23

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーパロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	12,043	4,299	14,793	5,017	36,152	2,328	38,481
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	141	48	4	—	194	3,717	3,912
計	12,184	4,347	14,797	5,017	36,347	6,046	42,393
セグメント利益	753	99	810	359	2,022	2,133	4,155

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,022
「その他」の区分の利益	2,133
セグメント間取引消去	△2,033
のれんの償却額	△23
固定資産の調整額	7
その他	△28
四半期連結損益計算書の営業利益	2,077

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ダイユーエイト」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては106百万円であります。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーバロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	11,642	4,288	14,980	5,211	36,122	2,346	38,468
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	133	46	5	—	185	3,306	3,491
計	11,775	4,334	14,986	5,211	36,307	5,652	41,960
セグメント利益	389	72	698	218	1,378	1,760	3,139

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,378
「その他」の区分の利益	1,760
セグメント間取引消去	△1,633
のれんの償却額	△23
固定資産の調整額	6
その他	△28
四半期連結損益計算書の営業利益	1,460

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。